

議長定例記者会見 会見録

日時：令和5年6月5日 10時30分～

場所：全員協議会室

1 冒頭の挨拶

2 発表事項

令和5年度三重県議会インターンシップ実習生を募集します

3 質疑項目

- 令和5年度三重県議会インターンシップ実習生の募集について
- 全国都道府県議会議長会について
- 東海北陸7県議会議長会について
- 議会事務局の体制について

1 冒頭の挨拶

(議長)おはようございます。ただ今から6月の議長定例記者会見を始めさせていただきます。まず、はじめに、先日2日金曜日から3日土曜日にかけて、本県を含めた広い範囲で発生しました豪雨について少しコメントを述べさせていただきますと存じます。この豪雨で亡くなられました方に哀悼の意を表しますとともに、被災されました方々に心からお見舞いを申し上げます。県内でも負傷者や浸水などの被害があったようでございまして、早期のご回復また早期の復旧を願う次第でございます。では、本日は議長に就任させていただいて最初の定例記者会見でございますので、一言ごあいさつを申し上げます。この議長定例記者会見は、県民の皆さま方に議会活動について理解を深めていただくため、県政記者クラブおよび第二県政記者クラブの皆さま方のご協力のもと、議会におけるさまざまな取り組みや、県政におきます課題などについて広く発信する大変重要な機会であると考えております。5月の就任会見の際にも申し上げましたが、これからも引き続き議長定例記者会見を開催してまいりたいと考えておりますので、よろしくごあいさつを申し上げます。ここで副議長からも一言ごあいさつを申し上げます。

(副議長)おはようございます。私にとりまして、副議長に就任して以来、最初の定例記者会見となりますので、何卒よろしくごあいさついたします。広聴広報会議の座長を務めさせていただき立場として、より開かれた議会を目指して、県政記者クラブの皆さま、第二県政記者クラブの皆さまのご協力のもとで、さまざまな情報発信に努めてまいりたいと思っておりますので、何卒よろしくお

願ひ申し上げます。

2 発表事項

令和5年度三重県議会インターンシップ実習生を募集します

(議長) それでは私の方から、本日は令和5年度三重県議会インターンシップ実習生の募集について発表させていただきます。お手元に配付の発表事項1の資料をご覧ください。まず一つ目、目的ですが、このインターンシップは「実習生の知見を活用した客観的な視点から議会の在り方等に対する提案・意見を受けることにより、三重県議会における監視機能の強化、政策立案および政策提言の充実等に資すること」、また、「学生のキャリア形成の支援および地方公共団体における議会の役割に関する理解の増進を通じて、地方自治の課題に的確に対応し地方分権の推進に資する実践的能力を有する人材を育成すること」の二つを目標としております。次に実習期間ですけれども、今年の9月の2週間程度としております。次に受入対象者ですが、大学院で公共政策に関連する研究を行っている学生2名以内としてございます。次に実習内容ですけれども、当県議会の取り組みや、業務内容のガイダンス、本会議等の傍聴、事務局業務の経験のほか、議員との対話交流を行っていただき、それを通じて実習生から意見発表を行っていただくことを予定しております。実習生からの報告会は昨年度に引き続き公開で実施いたします。次に募集等でございますが、募集期間は本日5日から6月30日までといたします。このインターンシップ実習は、資料の裏面にも掲載してございますが、これまでの14年間で計19人を実習生として受け入れており、地方自治の現場を体験する貴重な機会にも繋がっているのではないかと考えております。私からは以上でございます。

3 質疑応答

令和5年度三重県議会インターンシップ実習生の募集について

(質問) それでは幹事社からお尋ねします。まず発表のインターンシップですけれども、何か今年は例年と違うところはありますか。

(議長) 私の今までの経験というか聞いている限りは、基本的には一緒でございます。ただ昨年度の実習生の発表は非常によかったということと、内容についてもいろいろと工夫しながら、より良くしたいなという気持ちはありますけれども、基本的には一緒でございます。

(質問) その中で参加経費の話ですけど、滞在費が自己負担ということですね。実習生の方の自己負担ということで、これかねてから例えば、県の公舎を使つてはどうかとか、何か負担してはどうかという議論にもなっていたかなと思ひ

ますけれども、今回はどういった状況でしょうか。

(議長)すでに過去からたびたび皆さまからも、ご質問なりご案内をいただいていたし、この5月の私どもの代表者会議でも、議員からご質問をいただきまして、例えば県営住宅であったり、今知事公舎が空いてるとか、そこを含めまして、便宜というか受け入れやすいというか、実習生にとって経費とかいろんな軽減につながる、参加しやすい、臨みやすいような状況の環境づくりという提案もいただいておりますし、皆さまからもすでにいただいている中で、すでに議会では検討してきたのは事実でございますけれども、なかなか期間が限られているということ、短期間というか中間的な2週間程度というのは、非常に負担になる部分とお許しいただける範囲というのは微妙なところかなと思います。ただ議会ですので、執行部や一般企業と違しまして、報酬を払うというのはちょっとふさわしくないのではないかとということ、他都道府県の状況を見ても、さすがにそこには至っていないということですね。だからできるだけ関係者の情報で、あっせんであったり、いろんなことについては極力相談に乗っているという状況はありますけれども、具体的に今ご指摘のいろんな住宅事情であったりそういうことについては、具体的にはまだ至っていないということです。ただ、代表者会議で最近の指摘もありますので、今後は、この1年を通じて、何らかの方向性を出せればなと思ってまして、検討することには間違いないので、ご理解いただければと思います。

(質問)それはあくまで、検討したとしても今回のこの9月の受け入れには反映されないけど、次年度以降のということで。

(議長)早速といえども、そうすぐには決まらないと思いますので、来年度からしか対応はできないのではないかなと思っております。

全国都道府県議会議長会について

(質問)それでは発表項目以外でお尋ねします。先日発表いただきましたけれども、中森議長が全国議長会の副会長に、ブロックの方で推薦されるということが決まったということですので、その受けとめ、どのように捉えていらっしゃるか。また、当初は県議会全体的に全国議長会の会長を目指そうという動きもありましたけれども、そこらも踏まえて副会長になったという経緯も含めてご説明いただければ。

(議長)経緯につきましては皆さまもすでにご承知かと思っておりますけれども、前任者で構成する東海北陸7県議会議長会で、4月段階までに動きがあったとい

うのは承知しておりまして、もちろん私も三重県が手を挙げているということ、それからまた他県の情報はあまり入ってなかったんですけども、最終的に富山県さんが手を挙げているということも聞きながら、前任者で4月27日の会議で、当該2つの県がというよりも、理事県というのがありまして、静岡県さんが提案をするという形があったと聞いておりまして、富山、三重県を除く他の県が、静岡県の提案を了としたと聞いてございまして、まだその時は4月27日ですので、すべての県議会が新体制になっていないという状況でした。そしてこの5月30日の新しいメンバーで構成する東海北陸7県議会議長会で、正式にというか改めてといいますか、理事県の静岡県からご提案をされました。会長候補に富山県、副会長候補に我が三重県ということでご提案されて、2県を除く他の県が異議がないということでしたので粛々と認められたということです。私にとっては、当初から覚悟といいますか、まだ議長になる前の話で、もし議長になった場合は、もちろんそういうことも想定しておかないと、前任者の前野議長からも、もしかしたらということで、フワッとそれは仮定の話ですので、そうという感じでしたけども。5月の役員改選でいよいよ私が候補になり、立候補表明と所信表明会でも、全国議長会の会長が云々ということでこちらから提案したわけではないんですけども、他の議員からもいろいろと2年以内ということで、質問の中で間接的に、2年以内ということですので、2年にすることも含めたら、特別な事情が生じたら信を問うというようなことで、何とかお許しをいただいたのかなというような気持ちでした。この上は、議長に就任した後の話ですけども、5月30日に向けまして、いろいろな心の整理をしながら、すべての7県議会の議長が決まり、30日にはいよいよ会議の中で、改めて静岡県に提案されて決定した副会長という重責をしっかりと受けとめながら、三重県から、恥ずかしくない、立派な副会長としてやっていかなければいけないのかなと、心新たにして、その責の重大さを感じているところでございます。過去、我が三重県はご案内のとおり、山本教和議員が2年間にわたって全国議長会を見事全うされたという経験をしていますので、副会長といえども、しっかりとした三重県の議長として、副会長の重責を負うということについては変わりないわけでございます。もちろん、富山県から選出されようとしてる全国議長会の会長をサポートしていくということも重要ではないかなと思っております。

(質問) 項目以外で質問があればお願いします。

- 第二県政記者クラブも含めてお願いします -

東海北陸7県議会議長会について

(質問) 中部北陸の議長の会合が5月30日に金沢であったんですね。

(議長) はい。

(質問) この時に、多分、それぞれ県議選経ての議会が多かったからだと思うんですけど、杉本副議長も同席されてるんですね。

(副議長) はい。

(質問) 杉本副議長は、この会合に出られてどのようにお感じになりましたか。

(副議長) 全国議長会の会長候補については、先ほど中森議長が申し上げたとおりでございました。初めて参加をさせていただいて、8本の議案が出されました。電気料金の高騰に関する支援や食料安全保障の強化、学校給食の無償化制度の構築についてなど8本の議案が出されて議決をして、そして全国へ上げていく。その過程を見せていただいて、私はこういった東海北陸7県議会議長会のような議長会の果たす役割というのは、改めて重要だと感じさせていただきました。ですので、ぜひ富山県の会長さんになられる方、そして三重県の中森議長が副会長として、その重責をしっかりと担っていただいて、こういった地方の声が国政に反映できるような形にということ、実感をさせていただいたところであります。以上です。

(質問) 富山の副議長は同席だったんですか。

(副議長) 議長はお見えだったのですが、副議長は欠席でございました。

(質問) 富山の副議長も女性ですね。

(副議長) はい。ご欠席でした。

(質問) ご覧になって、前、中森議長にお聞きしたらとてもじゃないけど、副会長案というか会長案というか、そこが覆るような雰囲気ではなかったってお話されてたんですけど、その辺はいかがですか。

(副議長) それまでにそれぞれのところでご議論いただいたことですので、そこでこれまでのことが変わるというようなことは感じられません。

議会事務局の体制について

(質問) その他項目含めて議長にお伺いします。さっきのインターンシップ制度や全国議長会の会長取りの話もそうですけど、全体に議会事務局の体制が、今年4月に新しい事務局長になっていますけど、ここのところずっと指示待ち職員が多くて滞っていて、自ら切り開こうという意欲が感じられないような感じがするんですけど。これは例えば、全議の会長取りの話にしても、三谷さんとか舟橋さんもおっしゃっていましたが、結局事務局が前例主義すぎて、全然新しいことやろうとしないとか、あるいは議長取りにしても、本気で取りにいったいないと。23年に取れた時は、その前から事務局が指示を受けてですけど段取りして取りにしている。今はその体制が全然できてない。こういうふうにさっき出てたようにインターンシップも、ずっと10年来その職員宿舍使ったらどうかとか、それはまあ便宜供与かもしれないけど現金を渡すわけではないので、そういう改善はある程度できたはずなのに、ずっと毎年毎年その次年度に持ち越しているじゃないですか。このスピード感のなさという事務局体制について、議長はどう思われますか。またどう指導されますか。

(議長) 事務局体制につきましては、今私が、この体制が良い悪いというのはコメントはできませんけれども。すでに私も議員を20年間やっているわけで、副議長も経験させていただいているわけで。前野前議長のときや青木議長のときに、いろいろそういった様子も間接的に知っているわけでございます。事務局体制については、素晴らしい資質を持たれた方がおられたり、事務方とすれば非常に私どもからするとありがたい方がたくさんおられて、議会運営からしたり、議員として、いろんなお手伝い、サポートについては非常に感謝している立場になります。議会事務局長が新しくなったということについては、今なったばかりでございますので、前の議会事務局長と今の議会事務局長がどうか、それを比較したりすることはまだそういう段階ではないわけで、肅々と今、議会事務局長として立派にやっていただいているわけで、これに尽きるわけでございます。議会事務局の体制も組織で行動されていると伺ってございますので、お一人お一人の持ち味を生かしながら、それぞれ相乗効果を出していただければと思っております。ただ、ご指摘のインターンシップについては確かにそんなに代わり映えのないとか、そういうようにお見受けされてるわけでございますけれども、昨年度の様子を知ってる私からすると、引き継ぎでどうなってるとか、これは議長同士の引き継ぎの中でお話させていただいたわけで、特段、工夫して改正する必要があるれば当然、その段階で工夫をされていくだろうと思っておりますが、インターンシップに限っては、昨年度もうまくやっていただいたという報告を受けてるわけで、私も少しずつ改善されている、例えば、発表会も堂々と発表されているのも、3年前とえらい違いだなと感じてお

ります。それから、多くの議員と接する機会を設けていただいておりますので、過去から見たら非常に大きな進展というんですか、内容は充実していると思います。さらにそれを充実して、受けた人はよかったなということで思いますので、今回も相当期待される方が来てくれるのではないかと思いますし、この限られた期間内で思いっきり見識を深めていただいたり、実習していただいたり、それぞれ我々議会も実習生も、成果ってというか、ウィンウィンといいますが、プラスを大きくしてほしいなと思ってございますので、この流れとか募集要項についてはこの範囲内でやるということですが、中身はもっともっと充実したものにしていこうと思っているわけでございますので、ご承知おきいただければと思います。

(質問)あえて異論を言うならば、少なくとも代表者会議等でも出ている話は、応募者が減っていると。これをかさ上げするにはどんな手があるかということでの、せめて滞在費等を自腹でホテルとか泊まれるんじゃないかと、空いている職員宿舎であるとか、そういうものを使って少しは便宜を図ったらどうかという話が出ているわけで、それがずっと先延ばしされていて、各派代表者会議でこの前言われたのは中嶋元議長だと思いますけど、中嶋さんに後でお伺いしたら、中嶋さんが令和元年、あのときに議長になられて、同じような質問が出たのでその申し送りをしたと。ところが、いまだに改善されてないと思って質問したとおっしゃったので、その辺はだからずっと課題として残っているわけじゃないですか。必ずしもそのインターンシップのレポートがすばらしいからといって、その人たちが本当に待遇面において満足しているかどうかは調査してないわけだから、その辺は分からないじゃないですか。だから、やれるところからやるって言うんだったら、もう10何年も懸案のやつを放置しているっていう体制はやっぱりどうかと思うんですけど。

(議長)ご指摘については、私も代表者会議の後、中嶋議員にもいろんな詳細について個別に聞いて、状況については今お話したとおりでございます。については、議会事務局にも検討については、放っておいたのかということではないということについては確認してございますけれども、改善には至っていないことは事実でございますので、特に代表者会議で指摘を受けたわけでございますので、改めてしっかりとやって、どういうことができるのかということも含めて考えていただく必要があるんじゃないかなと、これ代表者会議で提案されているわけですので、放っておくわけにはいかないと思っています。

(質問)事務局体制のことで言うと、中森議長は平成15年の当選組でいらっしゃるからあれですけど、要は平成7年に北川県政が誕生して、そのときに、

亡くなられた岩名秀樹さんが議長で、このお二人が多分あったから三重県の県政改革および県議会改革というのは車の両輪で進んだと思うんですが、そのときに岩名議長がおっしゃったのが、将来知事部局で部長級になるようなエース級の職員をよこせと議会事務局に。改革は共に手を携えなければいけないんで。決して今の職員の方がエース級じゃないという意味じゃないですけど。知事部局から来たのが小林清人さん、後の政策部長とか、途中で亡くなりましたけど南川さんとか、要は北川県政を支えられた県外でも名前知られるような職員たちが議会事務局を担ったわけです。その時のスピード感とかあるいは雰囲気から比べると、全く今は停滞しきっている感じが当時を知っている私としてはそんな感じがするんですけど、その辺はやっぱり議長のご指導なりで、そういうふうに変換していくべきだと思うので、その辺どうですか。

(議長)ご指摘のことについては真摯に受け止めたいと思いますし、本当に私も15年からですけども、その前の話は岩名先輩からも、当時からお聞きしているわけでございますし、特に執行部の大きく北川県政から野呂県政に変わる時でしたので、非常に三重県全体が大きく変わったな、変わるんだなということは感じておりましたし、私も議会基本条例の作成について、一員として一緒になって議会基本条例に関わったと思っております。三重県ここにありと、三重県議会ここにありということを全国に誇れる三重県議会に当時しっかりとさせていただいたのを覚えておりますし、他の都道府県に講師というか、私も大阪府議会へ講師で行ったぐらいですので、三重県がお手本ですよみたいなところで、ちょっと自慢話になりましたけども、失礼ですが、そういうことも経験をした一人でございます。おっしゃるようなことをしっかりと受け止めながら、私この議長になって、しっかりと三重県政をリードしていくというか、引っ張っていくつもりで頑張ったいので、ご理解をいただきながら推移を見ていただければと思いますし、頑張ったいというしか今言えませんが、ご理解いただきたいと思います。

(質問)その他、よろしいですか。終わります。ありがとうございました。

(議長)どうもありがとうございます。

(以上) 11時00分 終了